

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第10回頸城区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

○頸城区観光協会の現状説明について

(2) 協議事項（公開）

○地域活動支援事業の募集要項とスケジュールについて

○地域活動支援事業活動報告会について

3 開催日時

令和4年2月16日（水）午後6時30分から午後8時30分まで

4 開催場所

頸城コミュニティプラザ 2階 203会議室

5 傍聴人の数

6名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：上村閨一（会長）、佐野喜治（副会長）、小川泉、笠原昇治、佐藤学、滝本篤透、新保哲男、西巻肇、橋本春美、船木貴幸、望月博、山本誠信、横山一雄（委員14人中13人出席）
- ・ 事務局：頸城区総合事務所佐藤所長、井部市民生活・福祉グループ長、本山教育・文化グループ長、総務・地域振興グループ武内班長、市川主査、（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容

【武内班長】

- ・ 会議の開催を宣言

【上村会長】

- ・ 挨拶

【武内班長】

- ・宮澤委員の欠席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：佐藤委員、新保委員に依頼

【上村会長】

次第3 報告事項「頸城区観光協会の現状説明について」に入る。

(観光協会 平原理事長、石野副理事長、惣塚事務局長 入室)

頸城区観光協会は、頸城区地域協議会が行った自主的審議と地域を元気にするために必要な提案事業によって設立された経緯がある。委員の皆さんも変わっていることから、これまでの経過を改めて総合事務所から説明してもらった後に、観光協会の皆さんから話をお聞きしたい。

【佐藤所長】

- ・資料No.1 について説明

【上村会長】

- ・資料説明について委員に質問等を求める。

【船木委員】

大池・小池の利活用事業で地域活動団体など8団体とあるが、差し支えなければこの8団体の名称を教えて欲しい。

【上村会長】

これを決定した当時、船木委員も地域協議会委員だったのでその時の資料を見ればお分かり頂けると思うが、観光協会の資料に記載があるので確認願う。

他にあるか。(委員に確認)

無いようなので観光協会の皆さんから説明をお願いします。

【石野副理事長】

- ・進行の説明

【平原理事長】

- ・挨拶

【惣塚事務局長】

- ・活動報告の説明 (資料No.2-1、資料No.2-2)

【石野副理事長】

ただ今の説明について質問はあるか。

【佐藤所長】

資料 No. 2-1、収入の部の平成 30 年度決算のところは、くびき里やま学校が指定管理で管理していたため、市から指定管理料として支払ったものであり、補助金ではないということを訂正させていただく。

【石野副理事長】

・資料No.2-2 の令和 3 年度キャンプ関連の統計の薪の販売の金額 253, 000 円を 252, 800 円に訂正

【新保委員】

私の知人からも、大池キャンプ場はあれだけの大きなキャンプ場を格安で利用でき、非常に使い勝手も良いと聞いている。キャンプ場については、第 3 キャンプ場が圧倒的に利用者が多いと思うが、キャンプ場別（第 1、第 3、第 4）の利用人数は把握しているか。

【惣塚事務局長】

正確な数字は持っていない。

【新保委員】

この前も真冬の雪の積もっている中でテントが張られていたので、真冬でもキャンプをする人がいるのかと思った。恐らく第 1、第 3、第 4 キャンプ場のうち、使い勝手が一番良いところが一番利用人数が多いと考えられるので、利用者の少ないところはそういうところを参考にすればさらに増員出来るのではないかと思う。

【石野副理事長】

私も今お話があった雪の中でテントが張ってあるのを確認していた。先週（2/11～2/13）の 3 連休の時だと思うが、あの時はちょうど天候も良く 10 張以上はあった。昨今コロナの影響でキャンプがブームになっているので、ありがたいことである。観光協会では、ビジターセンターでキャンプ場の受付業務をしているが、12 月から 3 月の中旬までは閉館しているのでビジターセンターでの受付業務はない。逆に言うと、12 月から 3 月中旬の閉館期間はキャンプ場は無料という形で運営している。多少キャンパーは来るが、夏場の一番盛んな頃に比べると少ない。イベント等の催し物もできないということもあって経費の削減も含めて前々からこの 12 月 1 日から 3 月中

旬まではビジターセンターを閉館にさせてもらっている。今の新保委員の話にもあったように、今後のお客さんの推移を見ながら閉館するのが良いか、受付だけでもやった方が良いか課題として受け止めさせてもらおう。

【惣塚事務局長】

- ・活動報告の説明（資料No.2-3、資料No.2-4）

【石野副理事長】

- ・その他の説明（資料No.2-5、資料No.2-6）

ただ今の説明について質問はあるか。

【船木委員】

私自身くびきのお宝のこす会、白田邸、瀧本邸に関わっているが、そこでは観光協会に会費を出しているが、結局どの会も自力でなんとかやっているのが現状である。今後観光協会として資料No.2-6 の企画運営委員の下に点線で囲んである文化資源の観光の目玉になるようなものに対してどのような対応をしていくのか、展望があれば教えてほしい。

【石野副理事長】

基本的には先程説明をさせてもらったように、バスツアーのコースに組み込んで皆さんにPR活動をするという考え方を継承していこうと思う。また、さくらメディカルが作られたさくら会館が大池のほとりにあるが、是非自分たちも（ツアーの）仲間に入れてほしいという話ももらったので、今年度コースに入れて皆さんにPRをさせてもらった。基本的にはこれまでやってきたバスツアーを引き継ぎながらさらに少し肉付けをしながら進めていきたい。もし船木委員からこうした方が良いとか、あるいはこうすべきでないかとかという提案があったら、今でなくても結構なので事務局に提案をしてもらえればありがたい。

【船木委員】

バスツアーということだが、頸城区観光協会単独で観光業の申請は済ませているのか。恐らくツアーを組むと観光業に引っかかると思う。調べて必要であれば違う方法でされたら良いと思う。

【笠原委員】

観光協会はビジターセンターの指定管理を受けるに当たりNPO法人の資格を取得し、ビジターセンターの利用促進を図ろうとした。当初からそうであったが頸城区

は食べる場所がない、泊るところが無い、観光協会をバックアップする組織がないということで、本当にお金がなくて大変だと思うが様々な工夫や企画をして頑張っている姿に敬服する。また、ビジターセンターは老朽化により投げ出したくなるような施設であり苦勞されているのも分かった。今後の企画運営や施設の維持・管理については市や市議会の協力を得て、何とかくびきを元気にするように私たちも頑張っ て協力していかなければならないと思う。

【石野副理事長】

観光協会の会員は正会員が12月2日現在で44名となっている。その会員の会費が10万3千円となっている。賛助会員は団体が15、賛助会社は個人も含めて31で合わせて46となっており、会費は48万8千円で個人会員との合計で60万弱である。それに上越市からの補助金を加えた中で運営しているのが実態である。

今、笠原委員から話があったように、今年の夏に大変厳しい状況になり、皆が顔を合わせる度にもうやっていけないという話になった。特に今の説明のとおり、ビジターセンターの宿泊や合宿利用の収入を見込んでいたがそれがほぼない訳で、そうなる と大きな赤字になってしまうのではないかとということで、ある程度の割合を決めて資金を借りるなどいろいろやり方を変えて進めたら良いのではないかと話もあつた。その後少し追い風もあり、とにかく現状の中で削れるものは削り収入を得られるものは拡大しようと皆で知恵を絞りながら現在に至っているという状況である。

【佐藤所長】

資料 No. 2-6 の組織図の案の中で、上越市の頸城区総合事務所と地域協議会が観光協会の事務局のところを実線で結ばれている。もしかしたら委員の皆さんも違和感があつたかもしれないが、私も事前に見せてもらった時に例えば上越市から職員を事務局の方に派遣しているのではないかと等ととられかねないのではないかと話をさせてもらった。これを結んだ意味は、石野副理事長ははっきり言われなかったが、先ほどお話しした観光協会の立ち上げ経過の中で大池・小池を元気にする会とか頸城区全体に関わる団体の皆さんが観光協会をバックアップしていこうではないかという思いがあつて設立されたもので、そういう思いをこの実線に込めたという話もされていた。この資料だけを見ると誤解をされる方もおられるかもしれない事を危惧するのでそこは少し工夫をして頂いてお考え頂ければと思うが、いずれにしても私共総合事務所もバックアップしていく必要があると思うし、いろいろな対応、アイデアも含めてま

た話をしていければと思っている。

【石野副理事長】

地域協議会の位置付け等、この組織図の明示の仕方について、所長や地域協議会長からもご提案頂いて、最終的にどういう形が良いか決めた中で最終案を当会理事会に諮るという形で進めていきたい。

全体を通して質問はあるか。

【西巻委員】

今、組織図の上越市と地域協議会との関係の話があったが、総合事務所に関しては観光協会は整備費を貰っているの、そこは実線でもよいと思う。ただ、地域協議会に関しては今回の会議での説明や委員からの助言という事であればそういう結びつきではなくてこれを理事会の隣に持って行って、逆に言うなら線で結ばない様な形でもよいのではないかという気はする。

【石野副理事長】

今程のご意見を役員でもう一度検討して、所長あるいは地域協議会長を交えた中で最終的な位置付けを決めさせて頂き、改めてご報告をさせて頂く。

【船木委員】

前回の地域協議会でくびき振興会の理事長でもある望月委員に話をさせてもらったが、昨年の秋にユートピアくびき希望館を会場に（頸城の祭典の代わりに）くびきの灯りを実施したが、すごく良かった。区外からもお客さんが結構来ていたので、あのまま終わらせるのは勿体ないと思っていた。観光協会が組織としてきちりされるのであれば、毎年あそこまで大きく無くても良いが、是非観光協会のイベントとして続けて欲しいと思う。

【石野副理事長】

先日、くびき振興会に観光協会のイベントとして掲載したいとお願いをしたところ、快諾を頂いている。船木委員の言われるとおり新しいイベントではなかったが、私も大成功であったと思う。準備を含め総合事務所からもご支援を頂きあのようなものが出来たと思っているし、私たちも参考にしていきたいと思っている。

【滝本委員】

せっかく、頸城商工会の平原会長が観光協会の理事長に就任されているので、商工観光という視点からは是非商工会の関係もこの組織図の中に入れてもらえないものか

と思う。というのは、頸城区は商業がほぼないような状況であるので、そういったところの盛り上げということで名前だけでも貸してほしいと思う。

【平原理事長】

今ご質問があった件だが、頸城区の商工業はいろいろな問題を抱えていた中で観光協会の前理事長が亡くなられて、商工会理事の中から次の観光協会の理事長を決める際に、当時観光協会の副理事長であった私が就任したところである。もともと商工会は、頸城の祭典や大池まつりには地域のために組合員をかなり動員して応援させてもらっているし、名前は入っていないなくても当然いろいろな行事に参加し応援をさせてもらっているのだから、その辺はご理解をいただきたいと思っている。

【石野副理事長】

滝本委員には貴重な意見をいただいた。我々はこれを最終的に理事会に諮って令和4年度からの運営組織図にしたいと思っている。現理事長には令和4年度からの任期2年この体制で引き受けていただくことになっている。正式には観光協会理事会で決めた中で最終的に理事長になるかと思う。

【橋本委員】

組織図の情報発信事業について、上越市外に向けての発信なのか、それとも新潟県内に向けての発信なのか、それとも全国に向けての発信なのかで、恐らく使う発信媒体が変わってくると思う。実際、以前頸城区の事を調べた時にSNS関係の情報発信が全くなく、他の自治体ではハッシュタグキャンペーンだとかSNS媒体を使って観光事業が盛り上がったという事例があった。頸城区観光協会ではキャンプ場についてSNSを使った集客を予定していないのか。

【石野副理事長】

それについては、事務局長とも情報発信の仕方について発信媒体を変えた中で進めて行こうと話合っている最中である。もう少し時間をいただいた中で進めて行きたいが、事務局長も一人であれもこれもやる訳にはいかない。ただ方向性としては橋本委員の言われたとおりどんどん情報発信を強化していきたい。イベント等の更新はホームページで行っており、以前よりは改善していると個人的には感じている。しかし世の中はもっと進んでいるので、我々も遅れをとらないように取り組んで行きたい。いずれにしても前理事長の高い志を受け継ぎ、持続可能な団体という形で継続していきたい。その為に生みの親である地域協議会の皆さんからいろいろな意味でバックア

ップをいただきたい。

【上村会長】

今回報告事項ということで取り上げたが、委員の皆さんは生みの親という自覚の中でかなり突っ込んで話をし、提案も出てきた。最後に私の方から2つお話しさせていただきこの報告事項については閉じたい。

1つは、先ほど事務局から観光協会の立ち上げについて説明があったが、当時、北陸新幹線が開通して頸城区にも観光協会が必要という流れの中で、地域協議会として地域を元気にするために必要な提案事業で取り上げて行政に掛け合いながら観光協会を立ち上げた。ただ、その当時の社会情勢と今の社会情勢は少し違うと思う。これから観光協会の存続に向け行政と掛け合っていくのであれば、もう少し実情を踏まえながらやっていかなければいけないだろうと思う。

もう一つは、地域協議会として一つの団体だけ手伝いをするのは、頸城区内での平等という観点から好ましくないのではないかと思う。従って、組織図においては直線でなくて点線とし、例えば、観光協会の理事会で皆さんの意見や要望を聞くという立場で参画が出来ればよいのではないかと考える。

では、次第4 協議事項「地域活動支援事業の募集要項とスケジュールについて」に入る。

【市川主査】

- ・資料について説明

【上村会長】

日程については、今ほど事務局から説明があった。採択方針については、修正があれば委員から事務局に連絡することになっていたが、その結果について事務局に説明をお願いします。

【市川主査】

期日までに、委員から修正についての意見はなかった。

【上村会長】

では、昨年と同じように審査するというので、採択方針はそのままで良いか。

【市川主査】

採択の要件については、昨年と同様である。

(委員、同意)

【上村会長】

次に、「地域活動支援事業の報告会について」に入る。

【市川主査】

・資料について説明

【上村会長】

今の説明について質問等はあるか。

【西巻委員】

報告会について以前も意見が出ていたと思うが、長々と説明をするのではなく、その事業が採択されて実施した結果、どのように変わったかがわかる様な報告会にしてもらえば、皆さんにも分かりやすいのではないかと。事務局からも発表団体にそのような話をしてもらいたい。

【上村会長】

採択要件では詳細な報告内容を定めていないので、今の段階では、発表団体にお願いをするという形だと思う。協議会の意見として事務局から伝えて欲しい。

【市川主査】

その点については、報告会開催の案内を出した時に、パワーポイントの作成方法を示し、それに沿って今後どういうまちづくりをしたいのか説明するようにお願いした。今月末がその説明原稿等の締切になっているので、その際にも欠けているようなことがあれば話をさせてもらおう。

【上村会長】

他にあるか。

無い様なので、次に次第5「その他」に入る。事務局に説明を願う。

【佐藤所長】

・部会の勉強会（公民館事業）について説明

3月8日（火）午後6時30分 公民館運営委員会議終了後

・次回の地域協議会の日程について 3月16日（水）で提案

【上村会長】

3月8日の部会の勉強会は、どのように参加するのか、また公民館運営委員というのは何人いるのか教えてほしい。

【本山G長】

3月8日に参加される公民館運営員の皆さんは各分館（7分館）の代表者の皆さん
だけとさせてもらっている。

【上村会長】

- ・ 次回の地域協議会 3月16日（水）
- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

頸城区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-530-2311（内線212）

E-mail：kubiki-ku@city.ioetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。